

地域福祉計画推進懇話会 構成員の取組紹介

【構成員氏名】 北九州市社会福祉協議会地域福祉部 磯田 佳宏	
【取組名】 地域支援コーディネーターの取組	
【地域課題・取組のねらい】 急速な少子高齢社会のなか、一人暮らし等の高齢者が住み慣れた地域で生活していくために、介護保険等の公的サービスだけでは十分に担うことのできない日常の見守りや支援活動を地域住民の参加により構築していくために、地域の互助活動を支援していくもの。 課題としては、地域の福祉課題に無関心な住民への啓発と参加促進、地域団体・民間団体・サービス提供企業との連携と協働。	
【取組の概要】 地域の互助活動を高めるために、地域の会合等に参加し困りごと等を把握し、地域課題解決の方法と一緒に検討していく。 また、個別の生活・福祉課題に対応していくために、地域・社会資源を整理し、課題をもつ住民につなげる取組みを進めていく。	
〔活動内容〕	
1 会合への出席（校区社協、民児協、サロン活動等）	
H 2 7	1, 2 1 5 回、2 6, 5 6 0 人
H 2 8（4～10月）	1, 4 1 3 回、3 3, 1 1 0 人
2 地域の資源把握	
(1) 生活支援活動	H 2 7 H 2 8（4～10月） 2 0 0 件 8 9 件 ・買い物代行、買い物配達、配食、調理、洗濯、外出介助等 ・H 2 7～買い物配達、H 2 8～買い物代行が最も多い
(2) 互助活動	7 8 件 1 8 件 ・ゴミだし、話し相手、見守り・安否確認、サロン等の活動 ・H 2 7、H 2 8とも大部分がサロン等の活動
3 相談支援	
(1) 個別相談に関するもの	H 2 7 H 2 8（4～10月） 3 3 3 件 1 7 8 件
(2) 互助活動に関するもの	8 6 8 件 4 4 4 件
4 成果	
(1) 福祉協力員等の確保	H 2 7 H 2 8（4～10月） 3 1 人 4 6 人
(2) サロン拠点開設箇所	9 カ所 1 7 カ所
【取組の中で見えた課題】	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民への啓発、活動への参加促進（関心を高める） ・地域課題の把握と協力体制づくり（課題の共有） ・福祉協力員等のボランティア活動者の確保（人材の発掘） 	

地域福祉計画推進懇話会 構成員の取組紹介

【構成員氏名】 北九州市社会福祉協議会地域福祉部 磯田 佳宏						
【取組名】 ふれあいネットワーク活動（校区連絡調整会議について）						
【地域課題・取組のねらい】 福祉協力員、民生委員・児童委員、自治会・町内会役員、老人クラブ等の地域活動者の情報共有と、福祉専門職（地域包括支援センター、社会福祉施設職員）等の参加による地域課題の解決の促進。						
【取組の概要】 福祉協力員等が見守りや助け合い活動を通じて、地域のなかの困った問題や疑問に思うことなどを会議で報告し、その解決のために関係者での協議や情報共有を行うため各校(地)区社会福祉協議会が定期的を開催するもの。 (平成27年度活動実績) 「話し合い」連絡調整会議の開催 <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>月に1回開催</td> <td>80校区</td> </tr> <tr> <td>2か月に1回開催</td> <td>47校区</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>27校区</td> </tr> </table> (校区の実践例) ○小倉南区K校区 概ね毎月第4土曜日に開催。 小地域毎に会議と、地域全体の会議を交互に開催。 参加者は、校区社協役員、福祉協力員、民生委員、自治会・町内会長、老人クラブ、市民センター職員、学校関係者、校区社協部会（年長者、体育、婦人、青少年）、保護司、NPO法人（子育て関係）と、必要があれば医師、薬剤師が出席。 課題の協議と、これからの地域福祉活動について検討。 ○八幡西区K校区 毎月第2水曜日に開催。 参加者は、校区社協役員、福祉協力員、民生委員、自治会・町内会長、老人クラブ、市民センター職員、障害者施設職員、ボランティアグループ、保育所職員、就労支援団体、校区社協部会（ふれあいネットワーク、健康づくり、環境、広報）が出席。各部会からの報告と、福祉協力員等からの報告と情報交換を実施。	月に1回開催	80校区	2か月に1回開催	47校区	その他	27校区
月に1回開催	80校区					
2か月に1回開催	47校区					
その他	27校区					
【取組の中で見えた課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉活動の担い手確保 ・地域の関係団体と連携した課題整理と協働の促進 ・新たな課題に対応するボランティア活動者の育成 						

地域福祉計画推進懇話会 構成員の取組紹介

<p>【構成員氏名】 特定非営利活動法人 抱樸 中間 あやみ</p>
<p>【取組名】 生活困窮者へのアウトリーチ、伴走型支援</p>
<p>【地域課題・取組のねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アウトリーチを行いながら、地域の中で困窮し孤立状態にある方の発見と、発見後の伴走型支援を行いながら、伴走型支援（人生支援）を行うことを目的としている。 ・ホームレス（野宿者）の支援から活動を開始し、現在は対象を拡げて支援を実施。
<p>【取組の概要】</p> <p>○法人紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1988年活動開始。2000年にNPO法人格取得し「NPO法人北九州ホームレス支援機構」、2014年に「NPO法人抱樸」と名称を変更。 ・活動の使命：①ひとりの路上死も出さない、②ひとりでも多く、一日でも早く路上からの脱出を、③ホームレスを生まない社会を創造する。 ・困窮要因を「ハウスレス（物理的困窮）」と、「ハウスレス（関係性の困窮）」と捉える。 ・地縁・血縁・社縁の脆弱化。それらをコーディネートする縁＝伴走型支援を実施。 ・北九州市、福岡市、中間市、下関市に活動拠点を設けている。 ・5つの施設（総定員168名）を運営。シェルター、中間施設、終の棲家機能。 ・ホームレス（野宿者）への支援のみならず、脱ホームレス後のアフターケア、高齢者福祉、障がい者福祉、刑余者、子どもとその世帯に対する支援などを実施している。 ・保証人バンクシステム（約700件の利用）・居宅協力者の会（北九州40社、福岡10社）・自立支援法律家の会（弁護士、司法書士、社労士など7名） <p>○支援内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・炊き出し・アウトリーチ→自立支援（ホームレス自立支援センター・自立支援住宅など）→アフターケア・なかまの会の自助組織による安否確認 ・自立者総数：2800名 → アフターケアのサポート実施中：約2000名 ・自立達成率：92%（半年の自立プログラム） ・自立生活継続率：92% ・就労率：58% ・登録ボランティア250名
<p>【取組の中で見えた課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困窮者の発見の困難さ ・福祉のセーフティーネットから漏れる、もしくはボーダーライン層への支援の困難さ ・地域と連携した支援システムの構築

地域福祉計画推進懇話会 構成員の取組紹介

【構成員氏名】 北九州市障害者基幹相談支援センター 石丸 美穂

【取組名】 (1) 北九州市障害者基幹相談支援センター (委託相談支援事業)
(2) 北九州市障害者虐待防止センター (3) 北九州市障害者自立支援協議会

【地域課題・取組のねらい】

(1) 障害のある人は、一般の人とライフステージが相違する。障害の重い人は幼少期から地域から離れた専門機関に通い、障害の軽い人の場合は中学までは地域の学校へ通っても、高等学校以降は就労できる人を除き、やはり地域から離れた事業所等へ通う実態があり、そのほとんどを家族で支えている実情がある。

(2) 家庭基盤が脆弱な世帯への相談支援や触法障害者・自閉症スペクトラムに関する相談など、ニーズ把握をするための関係性づくりや生活実態の把握に時間を要する相談を受ける。

(3) 障害者基幹相談支援センターに障害者虐待防止センターの機能が付加されていることで、障害者虐待の届出や通報の受理から虐待防止啓発、養護者支援まで一貫した取り組みを行う。

(4) 障害者自立支援協議会で、北九州市内で障害児者が住み慣れた地域で暮らし続けるため、個別の相談事例からあがった課題の共通点を整理・協議を行い、新たな取り組みの提案を行う。

【取組の概要】

(1) 市民から見たわかりやすい相談窓口として設置。北九州市内在住の障害者および家族、関係者からの相談を受ける。

①地区相談員による相談受付

- ・市内の24地区(地域包括支援センター準拠)に地区相談員を配置、また継続相談支援対象者には担当者を配置。
- ・「ニーズ把握」と「障害者ケアマネジメント」

②一次相談窓口(総合・専門相談)

- ・「よろず相談窓口」と「必要に応じた訪問相談」、二次相談機関との連携と「伴走型」支援

③「より対応が難しい相談者」への対応

- ・特に顕著なのは「触法障害者」や「自閉症スペクトラム」に関する相談の増加

(2) 障害者虐待防止センター

- ①障害者虐待の届出・通報の受理 ②障害者虐待の防止啓発 ③養護者支援の取り組み

(3) 障害者自立支援協議会

- ①個別の相談事例からあがった課題整理、地域課題としての抽出、方策検討
- ②地域における横断的なネットワークのあり方検討
- ③研修会の開催(障害者地域生活支援研究会 毎月第3木曜日 18:30~)

【取組の中で見えた課題】

- (1) 地域性に鑑みた民生委員・児童委員との協力体制の確立と理解、啓発の促進
- (2) 障害のある人のライフステージへの理解と障害そのものへの理解促進
- (3) 災害時における地域住民との協力体制の確立
- (4) 障害者虐待防止に関する理解促進と通報のお願い
- (5) 地域で活用できるインフォーマルな社会資源の情報

地域福祉計画推進懇話会 構成員の取組紹介

<p>【構成員氏名】（公社）北九州高齢者福祉事業協会 渡邊 正孝</p>
<p>【取組名】 社会福祉法人の地域貢献事業について</p>
<p>【地域課題・取組のねらい】 ①地域によって異なる様々なニーズ、②介護の仕事に対するイメージアップ（福祉人材の確保）、③社会福祉法人の地域での存在意義 を課題として、高齢者福祉及び介護に関する正しい知識の普及・促進を図り、高齢者福祉サービス質の向上等に関する事業を行い、高齢者福祉及び介護事業の健全な発展と地域住民の福祉の増進に寄与することを目的として取組んでいます。</p>
<p>【取組の概要】 北九州高齢者福祉事業協会（通称「北九州高福協」）は、法人会員 52 法人、施設会員 78 施設（特別養護老人ホーム 49 施設、養護老人ホーム 9 施設、軽費・ケアハウス 18 施設、単独デイサービスセンター 2 施設）で組織され、様々な「地域貢献活動」に積極的に取組を行っています。</p> <p>①災害時の福祉避難所としての行政への登録 ②市民向けの介護施設見学ツアー ③民生委員や福祉協力員を対象としての介護保険説明会 ④厚生労働省が定めた「介護の日」11月11日（いい日、いい日）に合わせ、一般市民等に介護に対する知識と理解を深めることを目的とした講演会等の開催 ⑤将来の福祉人材育成に向けた各種学校への出前講演 * 高校の福祉科生徒への「福祉の職場が求める人材について」の出前講演 * 小学校と社会福祉協議会が連携し、開催される福祉体験学習への支援活動 ⑥地域清掃活動</p> <p>また、それぞれの施設で取組んでいる活動</p> <p>①地域の方々への相談支援や簡単な健康チェック ②地域行事への参加 ③地域の防災に貢献する為に、消防団に職員が加入 ④若松区の特別養護老人ホームでは「若松特養ネットワーク」をつくり、デイサービスで使用している送迎車両を使用していない昼間の時間を有効活用し、地域における買い物支援活動団体に協力して市場への送迎支援を行っています。</p>
<p>【取組の中で見えた課題】 * 市民の方々の高齢者施設に対するイメージがよくないと感じられるところがまだあり、施設は更に施設見学などを開催し、イメージアップにつなげていく必要がある。 * 地域の方々が求めるニーズは様々です。様々なニーズに応えられるよう福祉関係団体、ボランティア・NPO、行政など幅広い協働と連携するシステムづくりを構築する必要があると考える。 * 少子化や介護の仕事に対するイメージなどもあり福祉科の学生が年々減少し、福祉科が閉鎖される現状が出てきている中、人材確保が更に厳しくなり、慢性的な人材不足が心配される。福祉科系学生に対する出前講演だけでなく、幅広く介護の仕事を PR していく必要がある。</p>

地域福祉計画推進懇話会 構成員の取組紹介

【構成員氏名】 社会福祉法人 北九州市手をつなぐ育成会 理事長 小松 啓子

【取組名】

社会福祉法人 北九州市手をつなぐ育成会の『地域活動・行事への積極的な参加』と『地域に根ざしたカフェ事業の展開』

【地域課題・取組のねらい】

北九州市全域に 33 事業所を展開しており、各地域の実情に応じた関わりを実践している。継続的に力を入れてきたことは、地域活動・行事への積極的な参加であり、地域の方と障害のある方との交流を継続的に実施することで、障害があってもなくても共に暮らせる地域を目指している。また、近年では、カフェ事業を 3 箇所で開催し、地域の特色を生かした取組みを始めたところである。その目的は、障害のある方の働く場をつくること、地域に開かれたスペースとして必要とされる地域資源の一部となることである。

【取組の概要】

『地域活動・行事への積極的な参加』

地域清掃への参加、道路サポーター活動、古紙回収など多様な地域活動へ参加している。また、神社の祭り、校区の運動会、文化祭へ参加している。 ※別紙参照

【平成 27 年度地域活動実績】 19 事業所が年間 401 件の地域活動へ参加

【平成 27 年度地域行事实績】 16 事業所が年間 123 件の地域行事へ参加

『地域に根ざしたカフェ事業の展開』

八幡西区『ぼったりー』（平成 26 年 6 月～）、戸畑区『ばる』（平成 27 年 6 月～）、小倉南区『ぼぼっと』（平成 27 年 11 月～）にて、障害福祉サービスを展開する育成会会館の 1 階部分で、それぞれカフェ事業を営業している。障害のある方が生き生きと自信をもって働いており、地域の常連客もできつつある。 ※法人広報誌『ハートフルネット 12 月号』参照

【各カフェのコンセプト】

ぼったりー 『地域に開かれた陶芸カフェ』

ばる 『健康志向の地域ネットワークカフェ』

ぼぼっと 『コミュニティコラボカフェ』

【取組の中で見えた課題】

地域活動・行事への参加は、継続して取り組んでいるので、地域住民から好意的に受け入れてもらっている。今後、さらに地域との関係性を築いていけるよう企画段階からの関わりが必要であると考えている。そのためには、地域の課題に対して共に取り組んでいく必要性を感じる。また、各カフェ事業では、地域の方が気軽に立ち寄れる場となるよう、イベントスペースとしての貸し出しや、高齢者サロン、生活困窮者の学習の場としての活用を考えている。

平成27年度 地域活動参加状況一覧

社会福祉法人 北九州市手をつなぐ育成会

事業所名	地域活動(平成27年度年間参加回数)						取組みの中で見えた課題について				
1 インクルきく	北方1号・若園4号各公園花壇整備	12	花壇整備	12	地域清掃	12	ペットボトル寄贈	2	北九州市いっせい街美化	1	平成27年度は仮設のため参加できなかったが、毎年北方校区総合防災訓練に参加している。
2 インクル曽根	地域清掃	4									特になし。
3 インクル春ヶ丘	北方校区紫川清掃	1	天疫神社草取り	2	美萩野衛生学院ブラッシング実習の提供	3					校区・町内会活動では、北方中一町内会が高齢化のため、町内会長の担い手がいない状況。組織力が弱まっており、以前に比べ活動も減っている。
4 北九州ひまわりの里	道路サポーター	53	汐抜き穴清掃	1							特になし。
5 インクル大里	大里東市民センタークリスマス会	1	道路サポーター活動	5	ひきこもり支援	1					利用者の高齢化による体力低下の状況とどう折り合いをつけるかが課題である。
6 グループホーム支援センター東部	大里ホームマンション清掃	12	ホーム周辺清掃(たんぼぼ)	24	猿喰どんど焼	1	重住地区清掃	2	北方地区清掃	10	特になし。
7 インクルとばた	まち美化	11									参加はしているが、地域との距離感を感じる。小地域福祉計画(校区社協)に参画しているが、地域の課題に対して共に取り組む姿勢や取り組みの必要性を感じる。
8 八幡東工芸舎	公園清掃	10	古紙回収	12	合同ウォーキング	8	合同軽スポーツ	8			理解を深めるには、より地域に出て、一緒に活動することが大切である。
9 飛翔館	天籟寺川掃除	8									地域の方と一緒に取り組むというところが形骸化している。
10 浅野工芸舎	小倉中央区清掃活動	12	馬島清掃ボランティア	1							特になし。
11 日明リサイクル工房	うるるっちゃ活動	4	道路サポーター	2	赤十字献血	1					参加を行うことで従業員の社会貢献活動の意識が向上すると共に、一般の方の障害者理解の促進に繋がっている。
12 グループホーム支援センター中部	消火訓練	1	草取り	2							特になし。
13 インクル八千代	まち美化	12	地域美化	12	歩こう会	4	なるっこルーム	7	菜園隊	2	知ってもらうことや地域から声をかけてもらえることに繋がった一方で、いかに継続した関わりをしていくかが課題である。
14 若松工芸舎	いきいきサロン(サロン活動)参加	9	交通安全週間地域見守り(春・秋)	2	自治区会「防災訓練」	1	ウェルクラブ(子供会)施設見学	1			特になし。
15 洞海工芸舎	ひまわりサロンボランティア	10	廃品回収	1							毎年恒例の行事が多いので、相互に安心して参加出来ている。今後、新しい取り組みの検討も必要と思われる。
16 八幡西障害者地域活動センター	まち協健康づくり委員会	6	ふれあい昼食会	10	校区社協参加	2	コスモス鑑賞会	4	子ども講座ボラ	10	本人参加の取り組みが2つあり、地域啓発も進んできている。
17 本城リサイクル工房	北九州市まち美化事業	2	地域美化活動	2	シバナ生息地の環境保全	40					当事者会の「はばたく会」を主軸に、社会貢献に繋がる活動と環境保全に関係する活動等を行っている。
18 黒崎ジョブチャレンジ	黒崎まち美化活動	12	黒崎地区社会福祉協議会福祉協力員連絡調整会議	12							活動に参加されている方達への認知は広がりがつつあり関心を示す方も増えてきた。しかし、地域の中で潜在化している障害のある方のニーズの把握や周りの方の理解はまだ不足している。
19 グループホーム支援センター西部	町内会組長	1									町内会の組長の役割を1年間取り組んだ。職員は自治会の役員の方たちとのネットワークが構築できたが、利用者をどのように巻き込めるかが課題である。
平成27年度 法人全体地域活動参加実数						401					

平成27年度 地域行事参加状況一覧

社会福祉法人 北九州市手をつなぐ育成会

事業所名	地域行事(平成27年度年間参加回数)						取組みの中で見えた課題について				
1 インクル春ヶ丘	天疫神社秋祭り	1	北方校区運動会	1	北方校区ソフトバレーボール大会	1	北方校区レク大会	1	北方校区夏祭り	1	宿泊型定員10名となり、また利用者の就労先が日曜日の公休者が少ないため(サービス業のため)、行事の参加できる利用者が少ない。
2 北九州ひまわりの里	どんど焼き	1	地藏盆踊り	1							特になし。
3 インクル大里	ぬくもり作品展	1									参加だけの行事は複数あるが、企画から関わることは少ない。
4 グループホーム支援センター東部	猿喰ラジオ体操	42	猿喰盆踊り	1	猿喰汐抜き清掃	1	グランドゴルフ大会	1	北方地区運動会	1	特になし。
	重住地区秋祭り	1	重住地区盆踊り	1							特になし。
	仲町町内会会合	10	北方地区夏まつり	1	北方地区秋祭り	1					特になし。
5 八幡東工芸舎	ソフトバレー大会	1	文化祭	1	餅つき	1					参加はできるのだが、実行の手伝いに参入することが難しい。
6 飛翔館	天籟寺地区運動会	1	浅生市民センターもちつき	1							参加時のみの交流となり、その後の交流がない状態が課題である。
7 浅野工芸舎	三世代ふれあいオリンピック	1	市民センター文化祭	1	餅つき・どんど焼き	1					地域住民の行事参加が減る現状の中で、行事の盛り上げや準備後片付けの要員として工芸舎の参加があてにされるほどの関係性になっており、地域との良好な関係性作り、地域貢献の機会になっているが、利用者の参加ニーズは減っている。
8 日明リサイクル工房	西港工業団地行事(ボーリング・清掃・総会)	3									参加を行うことで従業員の社会貢献活動の意識が向上すると共に、一般の方の障害者理解の促進に繋がっている。
9 グループホーム支援センター中部	祭り準備・片付け	1									町内会によっては行事が少ないところもあり、参加出来る機会が限られてしまうホームもある。
10 インクル八千代	1人暮らし年長者ふれあい交歓会(職員)	1	浅川市民センターまつり	1	もちつき	1	ボランティアフェスタ八幡西	1	黒崎地区社会福祉協議会福祉協力員連絡調整会議(職員)	12	
	鳴水地区社会福祉協議会福祉協力員連絡調整会議(職員)	12									よりよい交流の工夫や、地域の中での役割等、準備段階から一緒に取り組んでいける交流の仕方が課題である。
11 ほっとハウスやちよ	穴生子どもまつり	1									市民とのふれあいの場面となるが、多くの来訪者があり、トラブルが心配された。
12 若松工芸舎	地域行事参加(二島祇園山笠、レクフェスタ等)	4									地域との関係性や認知度等は高まっているが、地域行事等参加型から共に創る参画型の体制の構築には、まだ至っていない。
13 洞海工芸舎	地区夏祭り	1	地区もちつき	1	市民センター祭り	1					毎年恒例の行事が多いので、相互に安心して参加出来ている。今後、新しい取り組みの検討も必要と思われる。
14 八幡西障害者地域活動センター	文化祭	2	八幡南本祭り	1	市民健康ウォーキング	1					ウォーキングは健康づくり委員会で企画しているものであり、地域連携が進んでいる。
15 本城リサイクル工房	わっしょい百万夏まつり・百万踊り	1	八幡西エコフェスタ	1							特になし。
16 グループホーム支援センター西部	自治会どんど焼き	1									地域の方たちとも顔なじみとなり、良好な関係性である。
平成27年度 法人全体地域行事参加実数						123					

カフェ事業の取組み内容と今後の課題について

社会福祉法人 北九州市手をつなぐ育成会

	客席数	一日平均 来客数	一日平均 売上額	来客層	主なメニュー	コンセプト	地域との関わりという視点 での取り組み内容	取組みの中で見えた課題
ぽったりー	28席	15名	9,127円	地域の高齢者 子供連れの親子	【ランチ】 ぽったりーランチ(週替わり) パスタ おにぎりプレート ピザトースト 【デザート】 フレンチトースト 自家製ケーキ チョコレートパフェ、等 【飲み物】 コーヒー 紅茶 オレンジジュース、等	(1)「地域に開かれた陶芸カフェ」 「障害に関わりなく、集える場」「アート活動を発信していく場」をコンセプトとし、「落ち着く空間」と「こころと体にやさしい食事」を提供している。 (2)陶芸(ぽったりー)カフェとして、食器は出来る限り、自分で作った陶器を使用し、その陶器は店内でも販売している。 (3)生活介護事業の利用者が作成したアート作品を店内に取入れ、利用者のエンパワメントを高める場としても活用している。	毎月チラシを発行し、地域の方々にもお渡ししている。特に、毎月行われている地域の社協の会議に参加し、カフェのアピールを行っている。打合せなどで、カフェを利用してもらうことも増えた。地域の方の協力もあり、ロコミで来店される方も増えてきている。	・カフェの営業を行っていく上での、経営の視点と経営の知識、また衛生面における知識の必要性を感じている。 ・地域の中で、「インクル八千代」「ぽったりーカフェ」が十分に知られていない現状であり、今後も広報活動に力を入れていく事が必要になっている。 ・ぶれないコンセプトと、味の一貫性のためのマニュアルやレシピの作成、メニュー開発が現在課題となっている。
ぱる	16席	18.9名 (10月実績)	9,731円 (10月実績)	地域高齢者	日替わりランチ カレー	(1)健康志向の地域ネットワークカフェがコンセプトとなる。 (2)事業所で提供する栄養バランスの摂れた食事を、地域住民に喜ばれる価格帯で提供している。 (3)2F、5Fで採れた無農薬野菜を一部ランチに活用している。又、販売している。 (4)顧客の9割が、一般市民。一般市民と障害者の相互理解の一場面となっている。 (5)安定して来店があることで、利用者の活動(接客等)が保障できている。	地域住民を顧客として獲得することが、今後の自然な地域との関わりに広がっていくと思い、低価格、高齢者に喜ばれる食事提供を念頭に商品提供を行ってきた。その結果、顧客の9割が一般市民となった。現在はそれ以外のイベント等の企画は意図的に行っていない。	・校区社協の小規模地域計画作成に事業所長が参画している。その中で、地域ニーズが徐々に見え始めてきた。 ・事業所が地域の課題を踏まえ、貢献できるものとして、高齢者の居場所＝高齢者サロンが有効であると考えおり、カフェを地域高齢者に開放する日を設定したいと考えている。 ・より地域を巻き込める仕掛けが出来た成果として、収入増や啓発等の課題解消に繋げたい。
ぽぽっと	26席	23名	13,000円	近隣の就業者 特別支援学校の生徒や職員、家族 地域住民	ランチ (并ランチ、パスタランチ) 水曜日定食	「コミュニティー コラボ カフェ」というコンセプト。 具体的には、 (1)学生から主婦・高齢者や職域の方まで、地域の幅広い顧客層に気軽に集ってもらえる店舗 (2)メニュー作り、イベント企画、作品展示等に地域の学生・主婦・農家・利用者等多くの人が参加し、関わる店舗 (3)おいしい食材・食事、おいしい時間、おいしい雰囲気・空間をみんなで共有し、楽しみ、作り上げる店舗	・ぽぽっと広場でイベント開催(野菜市 定期) ・会場貸出し(低料金) ・みんなの作品展示(ショーウインドボックス)	・定期的に野菜市等のイベントを実施して好評を得ている。今後はイベントスペース貸出等、学校・地域の方に広めたい。 ・みんなの作品展示は、数点あっているが、店内壁面等展示はまだ広報していないため、今後の課題である。 ・平成30年度に隣に新療育センターが完成し、そこにも食堂が開設され、入札で「創造館」「未来サポート」などのA型が運営すると予測され、ボリュームや価格面等は勝ち目がないと思われるため、何らかの差別化が今後の課題である。